

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 9 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370355

研究課題名(和文) サンドとスタール夫人における音楽と旅：性と国境を越える試みに関する研究

研究課題名(英文) Music and travel: George Sand and Madame de Stael's attempts to pass borders of gender and of nations

研究代表者

坂本 千代 (Sakamoto, Chiyo)

神戸大学・国際文化学研究所・教授

研究者番号：80170611

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)： フランスロマン主義の先駆者スタール夫人とロマン主義最盛期の女性作家サンドの作品・書簡中の「国境を越えること」と「性を越えること」について考察した。彼女らの著作の内容、文体、間テキスト性、文学史上の位置づけや影響関係などを検討することにより、音楽と旅による国家とジェンダーの越境のありさまとその射程を明らかにするのが本研究の目的であった。申請者は3年の期間中にサンドと音楽に関する共著書1冊、サンドとスタール夫人についての論文4本を公表し、サンド研究の最前線として世界的に認められたジョルジュ・サンド事典(フランスで刊行)の項目執筆を行い、3回の学会発表を行った。所期の目的を十分達成したと言える。

研究成果の概要(英文)： I studied about attempts to pass borders of gender and of nations in the writings of George Sand, the most famous French female writer in the 19th century, and Madame de Stael, forerunner of the French romanticism. The purpose of my research was to clarify the roles of "music" and "travel" in these "transborder" acts, by examining the contents of their works, their styles, their intertextual relationships, their positions in literary history and their influences. Between April 2013 and March 2016, I published a book on Sand and music (joint work with a musicologist) and four articles on Sand and Madame de Stael. I contributed two short pieces to "Dictionnaire George Sand" (published in France), and I also made three oral presentations concerning this research.

研究分野：フランス文学

キーワード：サンド スタール夫人 ロマン主義

## 1. 研究開始当初の背景

申請者は、平成 19-21 年度科学研究費補助金による基盤研究 C「フランスロマン主義文学に現れる音楽家像とユートピア - サンドとダグーの著作」において、それまで重ねてきた研究をさらに深め、音楽家像とユートピア思想という新しい切り口を用いて分析した。この研究を進めていくうち、サンドの音楽家像や芸術観とユートピア思想の形成と発展において、彼女自身がおこなった旅および作中人物たちの旅が非常に重要な働きをしていることに申請者は気づいた。旅とそれに伴う越境の主題を詳しく研究することによって、これまでの研究結果をさらに展開させて、今までよりもっと大きなパースペクティブを持つ研究結果が期待できるのではないかと考えて今回の研究課題を設定した。

## 2. 研究の目的

19 世紀フランスの女性たちの作品をジェンダーとの関連、旅との関連で研究していくと、そこには必ずフランスロマン主義の先駆者スタール夫人の姿が立ち現れる。19 世紀の女性作家たちにとって彼女は避けて通れぬ偉大なモデルであった。ナポレオンに疎まれた女性作家、19 世紀初頭のヨーロッパのオピニオン・リーダーのひとりであったスタール夫人の生涯(特に後半生)は旅の連続であり、彼女の著作もまたその影響を色濃く表している。すなわちそこには「国境を越えること」そして「自分の性を越えること」に関するトピックや問題提起が頻出する。また、ロマン主義全盛時代に文筆活動を開始したジョルジュ・サンドの書き残したのものにも、同様に音楽や旅による国家とジェンダーの越境のテーマを見出すことができる。本研究の目的は、スタール夫人とサンドの著作・書簡中のこれら 2 つの越境のテーマの性格とその射程を明らかにすることであった。

## 3. 研究の方法

### (1) 「国境を越えること」に関する考察

スイス人の両親の間に生まれ数カ国語をあやつるスタール夫人の代表作『コリンヌ』と『ドイツ論』等を取りあげ、そこに描かれ議論されているイタリア人や英国人などの国民性の問題を 21 世紀の視点から考察した。

サンドのエッセイ集『旅人の手紙』と『歌姫コンシュエロ』を中心に、ヨーロッパ各国の国民性や「芸術家の越境と理想社会の建設」について考察した。

### (2) 「性を越えること」に関する考察

『コリンヌ』およびスタール夫人の他の著作を分析して、そこにおける女性をめぐる問題について考察した。

『旅人の手紙』、『歌姫コンシュエロ』などサンドの著作に見られる性の揺らぎと越境について考察した。

本研究の研究協力者としてフランス・リー

ル第 3 大学のマルティヌ・リード教授を平成 26 年 5 月 17 日から 28 日まで招聘し、もうひとりの研究協力者である奈良女子大学の高岡尚子准教授とともに講演会・討論会など共同で研究活動を行った。

## 4. 研究成果

### (1) 主な成果

サンドの音楽家像に関する平成 24 年までの研究成果、および芸術家の越境と理想社会建設のテーマについての考察を、加藤由紀との共著『ジョルジュ・サンドと四人の音楽家リスト、ベルリオーズ、マイヤベーア、ショパン』として刊行。これに関する研究発表も行った。

『コリンヌ』における国籍といわゆる「国民性」の問題についての考察を「スタール夫人の『コリンヌあるいはイタリア』を二十一世紀に読む」という題名で刊行。

『コリンヌ』における女性の問題、および 18 世紀末のヴェネツィアの「境界性」について研究発表を行い、その内容を「終わりの予感 『コリンヌ』のヴェネツィア」と題する論文として刊行。

『旅人の手紙』における性の揺らぎ、および 19 世紀前半のイタリアにおける観光についての考察を論文「サンド『旅人の手紙』第 1・第 2・第 3 信について」として刊行。これに関する研究発表も行った。

『歌姫コンシュエロ』における性の揺らぎ、および音楽家の旅と理想社会建設に関する考察を「声をめぐる考察 『歌姫コンシュエロ』のウィーンへの旅」として刊行。

研究協力者マルティヌ・リード教授は申請者の援助を受けて神戸大学、奈良女子大学、日仏会館、お茶の水女子大学で講演し、お茶の水女子大学での講演に基づく彼女の論文が日本フランス語フランス文学会の学会誌に掲載された。またリード教授の著書『なぜ<ジョルジュ・サンド>と名乗ったのか?』の翻訳が刊行された。もうひとりの研究協力者である高岡尚子准教授は著書『摩擦する「母」と「娘」の物語』を刊行した。

### (2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

「国境を越えること」に関する研究

まず、このテーマに関しては日本でも社会学・政治学・歴史学などさまざまな角度から研究がなされているが、18 世紀から 19 世紀前半のヨーロッパに関して文学からのアプローチ、しかもフランスの女性作家の作品からの考察はほとんど存在しなかったため、本研究は独創性をおおいに発揮した。次に、19 世紀前半のヨーロッパにおけるツーリズム誕生とロマン主義的心性のかかわりについても本研究は一石を投じることができた。また、前回の科学研究費補助金による研究結果を引き継ぐとともに今回の研究テーマについても論じた著書の刊行と研究発表により、

ロマン主義文学における音楽家と越境の関係について新しい知見を発表して一定のインパクトを与えることができた。

「性を越えること」に関する研究

スタール夫人の著作の重要性はフランス文学研究者にとっての常識ではあっても、彼女の著作を本研究のような角度から考察したものはほとんどなく、申請者の論文と講演はわが国において一定のインパクトを与えた。特に大阪府立大学における講演は、同大学の村田京子教授の研究との相乗効果もあり、新しい角度からのスタール夫人論として大きなインパクトを与えたと思われる。サンドに関しては、ジェンダー研究からのアプローチは日本でも数多くあるが、本研究のように『旅人の手紙』やコンシュエロの旅と声の関係の重要性に特に注目したものはなく、その点で非常にユニークであると評価された。研究協力者である高岡准教授の著書も、学会誌の書評で取り上げられるなど、フランス文学へのジェンダー論的アプローチとして高い評価を得た。

外国での位置づけ

本研究の成果としてあげた申請者の著書・論文はすべて日本語であるが、その内容についてはHPにフランス語のレジュメを掲載しており、仏語圏の研究者にも周知されている。また、ジェンダー視点による文学研究のフランスにおける最前線に立ち、国際的に名高いリード氏が本研究に協力し、申請者の助力のもとに日本で講演会・討論会をおこなって日本の学会誌にフランス語の論文が掲載されたことは、日本とフランスのみならず（フランス文学へのジェンダー論的アプローチが盛んな）アメリカにもかなりのインパクトを与えた。

(3)今後の展望

本研究において、サンドの『旅人の手紙』と『歌姫コンシュエロ』、スタール夫人の『コリンヌ』の中の音楽や旅による国家とジェンダーの越境について考察するうち、これらの越境行為の連鎖が多くの場合、なんらかの形でフランス革命およびその記憶と関係があることを申請者は発見した。彼女たちに限らず、19世紀フランスの知識人たちの多くは1789年に始まったフランス革命の意味を徹底的に考えずにはいられなかったのである。そこで、平成28年度からの3年間は「サンドとスタール夫人における音楽と旅：フランス革命とどう向き合うか？」というテーマで研究を進めることとした。

フランス史全体を眺めたとき、広義の「19世紀」を1789年（フランス革命勃発）から1914年（第一次世界大戦勃発）までの期間とする歴史家もいる。それほど革命は衝撃的であったのだが、恐怖政治、ナポレオン支配のあと、政体はまた王政・帝政を経てやっと第三共和制となるのである。19世紀前半のフランス知識人たちにとって、1789年のあと、1830年の七月革命、1848年の二月革命勃発

など、フランス革命はまだ終わっていないのであり、それが持つ意味についてたえず考え続ける必要があったのだ。

EUの試行錯誤が象徴するように、20世紀後半以降のヨーロッパの人々は経済的にも文化的にも「国家」（国民国家）の枠を越えることを模索している。また、フェミニズムの新たな展開により「性」を越えることの重要性も強調されてきた。これらは一方では19世紀のロマン主義運動にたいする反発であり、他方ではその継続でもある。したがって、本研究でおこなったように、ロマン主義者であり女性でもあるスタール夫人とサンドの作品を音楽と旅による性と国家の越境の試みという視点から考察し、さらに今後それらと革命との関連を探ることは、19世紀ヨーロッパの精神風土の基盤に迫ろうとする試みである。その成果はこの地域における近未来の変動の予測に貢献できるだろうと申請者は考えている。また、今後の研究から得られる知見のうち、旅とイマジネーションとの関係性、土地・住民・音楽の結びつきに関する考察、音楽とフリーメイソンとフランス革命の関係に関する考察などは、音楽学、歴史学、そして観光学など、文学研究とは異なる分野にも新しい視座を提供できるものと申請者は期待している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

坂本千代、「スタール夫人の『コリンヌあるいはイタリア』を二十一世紀に読む」、『近代』、査読なし、110巻、2014、pp.1-15  
坂本千代、「終わりの予感 - 『コリンヌ』のヴェネツィア」、『第18期女性学講演会第1部「文学とジェンダー」』、査読なし、1巻、2015、pp.15-29

<http://repository.osakafu-u.ac.jp/dspace/handle/10466/14578>

坂本千代、「サンド『旅人の手紙』第1・第2・第3信について」、『国際文化学研究』、査読なし、44巻、2015、pp.79-93、[http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta\\_pub/G0000003kerneldetail-jp](http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003kerneldetail-jp)

坂本千代、「声をめぐる考察 - 『歌姫コンシュエロ』のウィーンへの旅」、『国際文化学研究』、査読なし、45巻、2015、pp.55-68、

[http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta\\_pub/G0000003kerneldetail-jp](http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003kerneldetail-jp)

〔学会発表〕(計3件)

坂本千代、「サンドと音楽家」、日本ジョルジュ・サンド学会、2013.10.26、別府大学（大分県）

坂本千代、「終わりの予感 - 『コリンヌ』のヴェネツィア」、大阪府立大学女性学研究センター（招待講演）、2014.12.13、大阪府立大学（大阪府）

坂本千代、「*Lettres d'un voyageur*の最

初の3信について考える』日本ジョルジュ・サンド学会、2015.5.30、明治学院大学（東京都）

〔図書〕(計1件)

坂本千代、加藤由紀、彩流社、『ジョルジュ・サンドと四人の音楽家 リスト、ベルリオーズ、マイヤベーア、ショパン』、2013、173（執筆箇所は分割できず）

〔その他〕

ホームページ等

<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/staff/sakamoto/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

坂本 千代(SAKAMOTO, Chiyo)  
神戸大学・大学院国際文化学研究科・教授  
研究者番号：80170611

### (2) 研究協力者

リード マルティーン(LEID, Martine)  
リール第3大学・教授

高岡 尚子(TAKAOKA, Naoko)  
奈良女子大学・准教授